

「モンテカルロ・バレエ団とジャン＝クリストフ・マイヨー」
—相互の関連と発展に焦点をあてて—
「LES BALLETS DE MONTE-CARLO AND JEAN-CHRISTOPHE MAILLOT」
—FOCUS ON THE MUTUAL RELATIONSHIP—

1K03B165-6 氏名 藤田淳子

指導教員 主査 杉山千鶴 先生 副査 寒川恒夫 先生

1.序論

モンテカルロ・バレエ団とジャン＝クリストフ・マイヨーに関する研究は未だ着手されていない。本研究は、公演プログラム、専門誌・紙、に掲載された記事、唯一の資料「LES BALLETS DE MONTE-CARLO 1985/2005」という限られた資料を用いて行った。モナコ公国・モンテカルロ・バレエ団と芸術監督のジャン＝クリストフ・マイヨーという2本柱が、どのような関わりと変遷を経て、ダンサー、振付家の作品、共にモナコ公国の内外から注目されるバレエ団となったのかを探っていくものとする。

2.考察

モンテカルロ・バレエ団において、バレエ・リュスからバレエ・リュス・ド・モンテカルロ、モンテカルロ・バレエ団へという3度の組織の変遷を経て現在に至っている点を考慮し、バレエ・リュス、バレエ・リュス・ド・モンテカルロの歴史も踏まえて考察していく。特に、バレエ・リュス代表のセルゲイ・ディアギレフのプロデューサーとしての人脈作り、舞台作り、音楽との関わり方は、マイヨーの芸術監督という立場、バレエ・リュス最初の公演地がモンテカルロであることから、バレエ・リュス、ディアギレフ、バレエ・リュス・ド・モンテカルロ、モンテカルロ・バレエ団に関する文献研究から考察していくこととする。

マイヨーにおいては、作品、ダンサー、舞台スタッフ等の視点から、発展の要因を探ることが出来ると思われる。特に近年は、国内外の公演要請・ダンサーの出演要請の増加、新聞・公演評の掲載増加、好評の取得、コンクール審査員の任務等、舞踊界からの注目度が高まっている。これらの事実を踏まえて、モンテカルロという地をどのよう

に現在の地位にまで押し上げたのか、世界も認めるテクニックや表現をどのように充実させたのか、他の振付家にはない取り組みとは何なのか、マイヨーがダンサーやスタッフにどのように貢献しているのか、という点を、書籍、新聞記事、雑誌記事、公演プログラム等から考察していく。そして、振付家マイヨーの舞台作りの独自性、作品内でのダンサーの位置づけ、舞台美術へのこだわり方を探るものとして、「La Belle (美女)」(モンテカルロ・バレエ団、2001年12月27日、モナコ、グリマルディ・フォーラム、UCBS1002)のVTR研究、客観的批評文を用い、この作品のモンテカルロ・バレエ団への影響、マイヨーにとってのモンテカルロ・バレエ団の位置付け、という点で現在に至るまでの相互の関連と発展について、考察していくこととする。

3.結論

モンテカルロ・バレエ団の発展において、モナコ王妃の支援・理解があること、マイヨー作品の個性と卓抜さ、舞台スタッフとの連携による舞台作り、ダンサーのダンス・クラシック・テクニックの高度さとマイヨーの理想を具現化する表現力、が欠かせない要因と思われる。総じて、マイヨーの高評価を得る創作力がモンテカルロ・バレエ団の発展に貢献していると言えるのではないかな。

モンテカルロは歴史的に、バレエ・リュスが最初に公演を行い、かつ1922年から1929年まで毎年公演を行った由緒ある地で、バレエの歴史もある。しかし、モンテカルロの地の特性ではなく、マイヨーのダンサーへの指導力、バレエ団を組織する監督力、振付家としての創作力が、モンテカルロ・バレエ団との関連・発展の最たる要因ではないだろうか。